

イマだから知っておきたい！

「食料安全保障」ってなあに!?



コロナパンデミックに続きロシアのウクライナ侵攻が、食料・肥料原料の価格高騰と飢餓の深刻化を招き、各国の食料安全保障を脅かしています。報道でも耳にするようになった「食料安全保障」は、どのようなカタチでわたしたちの暮らしに関わってくるのか、この機会に是非学んでみてください。

《01

～「食料安全保障」は日本だけの問題ではない！知っていますか？世界の食料安全保障～

国際社会における「食料安全保障（Food Security）」の概念



「食料安全保障」とは

全ての人が、いかなる時にも、活動的で健康的な生活に必要な食生活上のニーズと嗜好を満たすために、十分で安全かつ栄養ある食料を、物理的、社会的及び経済的にも入手可能であるときに達成される状況をいいます。

知っていますか？「食料安全保障の4要素」

出典：国連食糧農業機関（FAO）資料

供給面 (Food Availability)

適切な品質の食料が十分な量供給されているか？

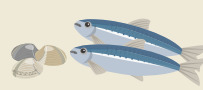


アクセス面 (Food Access)

栄養ある食料を入手するための合法的、政治的、経済的、社会的な権利を持ちうるか？

利用面 (Utilization)

安全で栄養価の高い食料を摂取できるか？



安定面 (Stability)

いつ何時でも適切な食料を入手できる安定性があるか？

《02

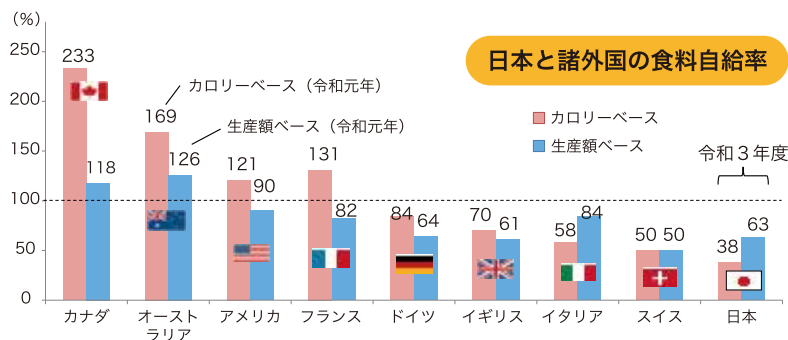
～予測不能な事態を想定した備えと食料安定供給に向けた労働力確保など課題は山積～

日本における「食料安全保障」の現状とこれから

食料の安定供給強化と食料政策の全体構想を見直し

ロシアのウクライナ侵攻をきっかけに、食料・肥料の多くを輸入に依存する日本の危うさが浮き彫りになりました。国民への食料の安定供給を確保するために、政策を抜本的に見直すタイミングが来ています。日本は食料自給率が38%と世界の主要各国の中では著しく低い水準です。

農林水産省の食料安保に関する検討チームは、米や麦、大豆、野菜などほとんどの品目で肥料原料の輸入減や価格高騰、労働力・後継者不足を「重要なリスク」と位置付け施策を検討するとしています。また、政府は農政の憲法を定めた食料・農業・農村基本法を見直すための作業を秋にも開始します。



食料の安定供給をはかる3つの柱

国内の農業生産の拡大（基本）

安定的な輸入

備蓄の活用



←農林水産省「食料需給表」、FAO「Food Balance Sheets」等を基に農林水産省で試算。（アルコール類等はい含まない）/ 数値は暦年（日本のみ年度）。スイス（カロリーベース）及びイギリス（生産額ベース）については、各政府の公表値を掲載 / 畜産物及び加工品については、輸入飼料及び輸入原料を考慮して計算。

※農林水産省「令和3年度 食料自給率・食料自給力指標について」より

《03

～わたしたちの食料を未来につなぐために「国消国産」JAグループ統一運動を展開～

「国消国産」～国民が必要として消費する食料は、できるだけその国で生産する～

全ての食料を国内で生産することは現実的ではありません。しかし、国民が必要として消費する食料は、できるだけその国で生産するという「国消国産」という考え方は、我が国として大切なテーマです。このテーマを実現するには、生産者だけではなく、国民全体の理解が必要です。JAグループは「国消国産」の国民理解醸成を進めています。



美味ちゃん
©みんなのよい食プロジェクト



～生産者だけではなく、国民全体で考える「食料安全保障」～

JAグループ千葉